

1867年における寧波入港の船舶

松浦 章

1 緒言

1842年の南京条約によって中国は対西洋に開港していた廣州に続いて、福建省の厦門、福州、浙江省の寧波そして上海の五港を対外開放した。この結果、多くの外国船が中国の五港を目指して来航して来るが、どのような船舶が来航していたかは、これまで具体的に明らかにされてこなかった。

その五港の一つ寧波も注目される港であった。開港後の状況に関して道光三十年（1850）七月乙未（初五日）の呉文鎔の奏文に、

寧波府地方爲通商口岸、夷船出入靡常、兼之定海孤懸海外、不可不加意防範。¹

と記しているように、五港開港後の寧波への外国船の来航は定まりの無い状況になっていたことがわかる。

その寧波の状況に関して西欧の記録として Williams, Samuel Wells の 1856 年の “*A Chinese Commercial Guide*” によれば、寧波港 ‘Port of Ningpo’ として次のように記している。

Ningpo has now least trade of either of the five open ports; it has however steadily and gradually increased since the place was opened to foreign ships in 1843. During the year 1855, the legitiniate trade was greatly interfered with and diminished, owing to the pirates which ingested the coast, and to the disturbances produced by the civil war in Chehkiang and Kiangnan.²

とあるように、寧波は 1843 年に五港の一港として外国船に開放されて以来、その貿易が着実に伸長していた。その貿易額も徐々に増加していたようである。しかし 1855 年当時において海賊や太平天国の乱などの国内の動揺によりその進展が阻碍されているとされていた。

この寧波にどのような国からの船舶が来港して来たかを具体的に示す史料はあまり知られて

¹ 『籌辦夷務始末』卷二、『籌辦夷務始末（咸豊朝）』一（全 8 冊）、中華書局、1979 年 7 月、40 頁。

² Williams, S. Wells, “*A Chinese Commercial Guide*,” Fourth editions, Canton: printed at the office of the Chinese Repository, 1856, p.247.

いない。そこで参考に上海の場合を見てみたい。

五港開港から8年後における上海港に入港した外国船のリストが“North-China Herald”紙、中国名『北華捷報』から知ることができる。同紙は1850年(道光三十)8月3日に創刊された。³その同紙の創刊後1箇月、8月中に入港してきた外国船を整理すると表1のように21隻にのぼる。

1850年8月上海入港船舶一覧 表1

号数	月日	船名	船籍・船式	トン数	船長	来航地	出港日	積荷	荷主
2	802	Lady Mary Wood	B. str.	630	Tronson	Hongkong	726	Opium	P.&O.S.N.Co. 's Agents.
2	802	Ganges	B. barque	243	Smith	Put back		Ballast	J.M.Smith&C o
2	808	Arienis	B. brig			Bpmbay		Opium	Lindsay&Co
3	303	Island Queen	B. schr	195	Macfarlaue	Hongkong	726	Opium	Dent,Beale&Co.
3	808	Arienis	B. brig		Rimington	Bpmbay	600	Opium	Lindsay&Co
3	809	Elizabeth Moors	B. barque	242	Patrickson	Amoy		Rice	Thos.Ripley&Co
3	811	Annie Buckman	Am.bq	530	Barber	Hongkong	803	General	J.M.Smith&C o
3	811	Gerda	Sw. ship	709	Ohlson	Singaporu	700	Sundries	Wolcott,Bates &Co
3	812	Ann Lockerby	B. schr	465	Beverley	Singaporu	718	Timber	Mackenzie, Brothers&Co
3	812	Ylocano	Sp.brig	227	Martinez	Manila	715	Sundries	Russell&Co.
3	814	Mooltan	B. barque	330	Stewart	Ningoi		Rice	Jardine, Matheson&C o
3	815	Nymph	B.schr	106	Wilson	Hongkong	810	Opium	Dent,Beale&Co.
3	815	Cnion	Sp.ship		Paradp	Manila	700	Sundries	Russell&Co.

³ 王桢林・朱漢国主編『中国報刊辞典(1815-1949)』書海出版社、1992年6月、3頁。

3	816	Mazeppa	B.schr	163	Down n	Hongkong	810	Opium	Jardine, Matheson&C o
4	816	Eliza Penelope	B. schr		Roberts	Calcutta and Hongkong		Opium	Lindsay&Co
4	816	Schillersoff	Rus.ship		Lindenb erg	NWC America	Furs		Order
4	817	Pilet	H.M.B.		Ince	Cruise			
4	820	Robert Pulstord	Am.ship	300	Crooke	Hongkong		Sundrie s	Augustine Heard&co
4	820	Reliance	B. barque	243	Harrowe r	Amoy		Rice	Jardine, Matheson&C o
4	822	Spec	B. schr	104	Robinson	Ningoi	819	Rice	Hargreaves& Co
5	826	Emily	B. barque	253	Valentin e	Liverpool	411	Piece goods	Hargreaves & Co.

これら 21 隻の船籍を見ると、英国籍の船舶が 15 隻である。この内訳は軍艦 1 隻、汽船が 1 隻、帆船が 13 隻である。アメリカ船籍が 2 隻の帆船、スペイン船籍が 2 隻の帆船、スウェーデン船籍が 1 隻の帆船、ロシア船籍が 1 隻の帆船が上海港に入港してきたのであった。⁴この 21 隻の船舶はほとんどが帆船が占めており、汽船は僅かにイギリスの P.& O.汽船の Lady Mary Wood 号のみであった。⁵

1850 年 8 月の僅か 1 箇月の状況ではあるが、対外開港によって各国の外国船の来航が知られるのである。このような状況が上海以外の 4 港にも見られたかについて、特に上海に近い寧波の場合を見てみたい。

2 寧波の開港

寧波の対外開港後の状況に関して 1923 年時期に記された日本の外務省記録である「寧波事情ニ係ル件」に、寧波の地位や交通等について述べている。同記録によれば次のようにある。

⁴ 松浦章「近代東アジア海域の汽船航運に関する航運データ」『関西大学アジア文化研究センター ディスカッションペーパー』Vol.1、2012 年 6 月、27-29 頁。

⁵ 松浦章「19 世紀後半東アジア海域における英国 P.&O.汽船会社の航運」『東アジア文化交渉学研究』第 5 号、2012 年 2 月、327～342 頁。

寧波ノ地位

寧波ハ一八四三年南京條約ニ依リ開カレタル港ニシテ、姚江、甬江ノ會流點ニ位シ、其江口鎮海ニ至ル十三哩、上海ヨリ百二十四哩ニ在リ、約二千噸級ノ汽船ヲ通ズ可シ。

舊寧波市ハ周圍十五支里、城壁ヲ圍ラシ、六門アリ。城外ニ通ズ。汽船會社、銀行、税關、其他大商店ハ江北ニ在リ、・・・

寧波ハ中部支那ノ要樞ニ位シ、南支那ニ於ケル廣東ト共ニ昔ヨリ外國ト通商シ、繁榮セシモ上海ノ開港ト共ニ其勢ヲ奪ハレ、今日ニ於テハ彼ノ廣東ノ香港ニ於ケルト同様、上海ノ一附属港タルノ觀アリ。僅ニ南浙ノ一商港トシテ餘命ヲ繼グニ過ギザルガ如シ。⁶

とある。寧波は南京条約締結直後に開港された。その立地の最大の要件は中国沿海の中枢部と言う地理的条件にあったが、開港後 70 年後の状況では、上海が繁榮しているのに対して、寧波は上海の付属的な商港とみられる状態であった。

同書の交通には、

寧波ヲ中心トシタル交通狀況ヲ見ルニ陸路ニ於テハ僅ニ滬杭甬鐵路ノ一部ノ開通セル以外見ル可キモノナキニ反シ、水路ニ在リテハ其幹線タル上海トノ聯絡ハ勿論、定海、象山、台州、温州等浙江省沿岸竝福建省福門廣東省厦門等ニ至ル汽船及ビ民船ニ據ル船路開ケ交通極メテ發達セリ。特ニ民船貿易ハ古來寧波船子獨占ノ觀アリ。所謂寧波船ト稱セラレ、其活動範圍ハ山東ヨリ福建、廣東ニ及ビ寧波商人ト共ニ其名夙ニ著ハル。⁷

とあるように、寧波の交通は陸路よりも水運に最適の地理的環境にあって、上海や浙江沿海の各地、さらには福建省沿海部、廣東、香港とも海上航路によって交通可能な状況にあった。その結果、海上航路を利用して商業活動を営んだ寧波商人を育んだのである。

同書の水運には、

一九二一年ニ於ケル寧波入出汽船狀況左ノ如シ、

外洋船

其他汽船	1,570 隻	1,855,707 噸
内河航行船	7,317 隻	560,549 噸
民船	11,629 隻	504,000 噸
合計	20,516 隻	2,920,256 噸

即チ寧波港一年間出入船舶約三百萬噸ニ達スナル。航路ニ付述ブレバ、

上海線 太古洋行一週三回、招商局ノ上海寧波温州線一週一回、寧紹輪船公司毎日一回

⁶ 「寧波事情ニ係ル件」、一頁。外務省外交史料館 B-1-6-279。

⁷ 「寧波事情ニ係ル件」、二頁。

定期航路ヲ有シ、怡和洋行ハ香港ヨリ寧波上海大連牛莊ニ至ル不定期ノ航路ヲ有ス。

太古洋行汽船乗船賃ハ一等七元、官艙一元房艙八十仙、デッキ六十仙ナリ。

温州厦門線 中國實業局ハ寧波ヨリ温州、興化、泉州、福州ヲ經由シテ厦門ニ至ル間ヲ

不定期ニ航シ、寧海商輪公司、寧象輪船局等ハ寧波ヨリ象山ニ至ル定期船路ヲ有ス。

其他沿岸小蒸氣船航路ヲ示セバ

永水公司ハ岱山ニ至ル間

永川公司ハ石浦普陀山間

通濟 鴻慶順安諸公司ハ鎮海及西塢間

永安 利運美益諸公司ハ餘姚方面間

何レモ旅賃ノ運送ニ相當成績ヲ擧ゲ居ルモノノ如シ。⁸

とあるように、1921 年に寧波に入港、出港した船舶は、汽船が 1,570 隻で 1,855,707 噸、姚江や甬江などの内河を航行する船が 7,317 隻で 560,549 噸、そして外洋航行の民船が 11,629 隻で 504,000 噸と言う状況であった。

このような寧波の 1864-1868 年間に入港した船舶の記録が、海関史料に残されている。Imperial Maritime Custom の記録で、その中の Returns of Trade at The Port of Ningpo, に依拠して作成したのが次の「1864-1868 年寧波入港船数表」⁹である。この表では寧波に入港した船舶にのみに限定して整理した。



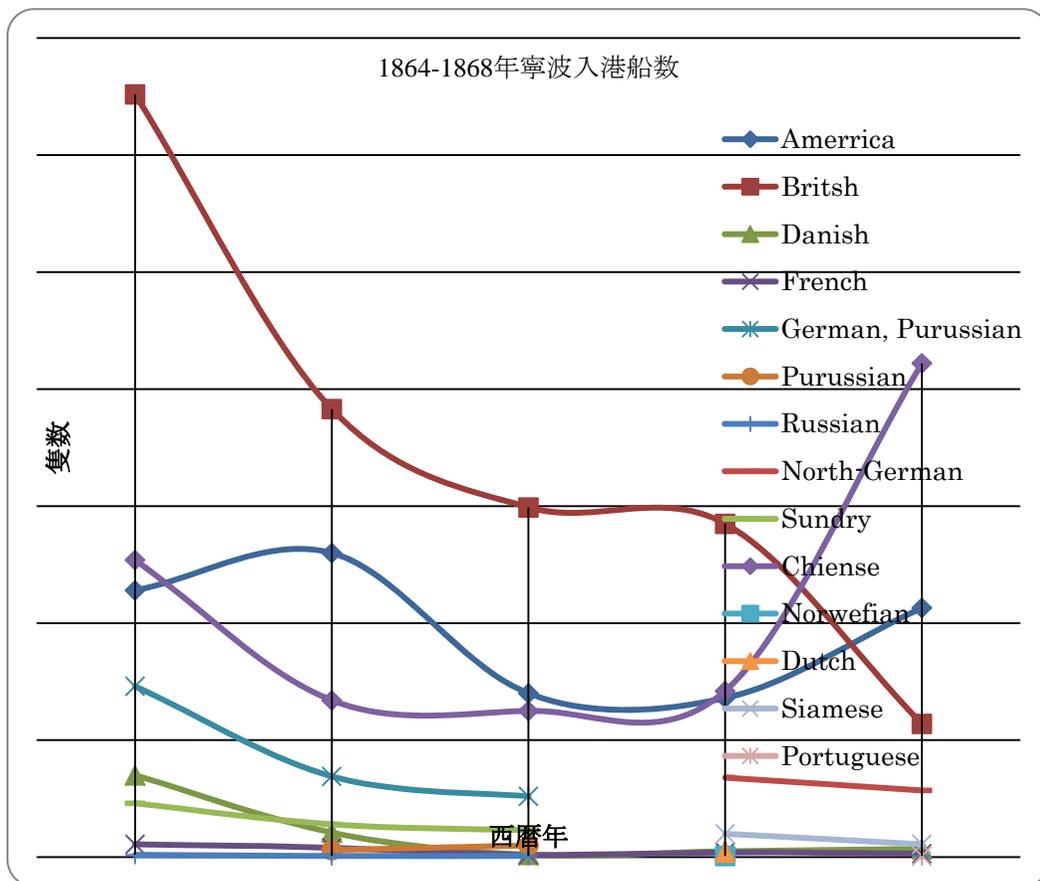
1885 年清仏戦争時期の鎮海口から寧州府城（右端）
鎮海口海防歴史紀念館『招寶山』寧波出版社、2006 年 6 月、口絵による。

⁸ 「寧波事情ニ係ル件」、三～五頁。隻数及びトン数はアラビア数字に改めた。

⁹ Returns of Trade at The Port of Ningpo, for the year 1865, pp.44-45. Returns of Trade at The Port of Ningpo, for the year 1866, pp.48-49. Returns of Trade at The Port of China open by Treaty to Foreign Trade for the year 1867, p.95. Returns of Trade at The Port of China open by Treaty to Foreign Trade for the year 1869, p.109. 『中國舊海關史料』京華出版社、2001 年 10 月、第 2 冊、208-209、692-693 頁、第 3 冊 111 頁、第 4 冊 133 頁。

1864-1868 年寧波入港船数表 单位：隻数 表 2

国名 \ 西曆年	1864 年	1865 年	1866 年	1867 年	1868 年
America	228	260	140	136	213
British	652	383	299	285	114
Danish	70	21	2	5	7
French	11	8	2	4	3
German, Purussian	146	69	52		
Purussian		6	10		
Russian	2	1	1		1
North-German				68	57
Sundry	46	28	23		
Chiense	254	134	125	142	122
Norwefian				1	
Dutch				4	
Siamese				20	11
Portuguese					2
合 計	1409	910	654	665	530



上記の表とグラフから明らかなように、寧波へ入港した最大の隻数を誇ったのはイギリスとアメリカ船であった。

しかしこの海関史料では、具体的にどのような船舶が寧波に入港してきたのであったかに関しては詳細は不明である。そこで North-China Herald and Market Report 紙に掲載された 1867 年の数箇月の船舶記録から検討してみたい。

3 1867 年に寧波に来航した船舶

1867 年の 4,5,7,11 月の 4 ヶ月の間に寧波に入港した記録が、The North-China Herald and Market Report No.7, May 23,1867, No. 16, August 5, 1867, No. 31, Dec. 14, 1867 に掲載されている。The North-China Herald and Market Report は中国名が『北華捷報與市場報道』とされ、1867 年（同治六）4 月 8 日に 1850 年 8 月 3 日に創刊した The North-China Herald、中国名『北華捷報』を改名してのものであり¹⁰、上海の経済事情の活性化に伴う変更であったろう。この The North-China

¹⁰ 王桢林・朱漢国主編『中国報刊辞典（1815-1949）』書海出版社、1992 年 6 月、4 頁。

Herald and Market Report に次に掲げる記事が掲載されている。

いずれも Ningpo Shipping List として Arrivals と Departures に分けられている。それらの内入港分のみ一覧表にしたのが次の表 3 である。

1867 年 4-11 月 Ningpo Shipping List 表 3

1867	Vesels Name	Where From	Flag & Rig.	Tons	Cargo	Consionees & Dispatched by	N.C .H. No.
424	Express	Shanghai	Br str	290	Opium & Bale Goods	David Sassoon, Sona & Co.	7
425	Shanse	Shanghai	Am str	561	Bale Goods, Op., Oil & Sun.	Nissen & Robertson	7
425	Annie Maria	Takao	Br bg	271	Sugar	Davidson and Co..	7
426	Express	Shanghai	Br str	290	Op., N. Goods, Wax & sun.	David Sassoon, Sona & Co.	7
429	Heather Belle	Shanghai	Br lug	80	Oil, Lead, Hides & sun.	Davidson and Co..	7
429	Express	Shanghai	Br str	290	Oium, Bale goods & Sun.	David Sassoon, Sona & Co.	7
429	Ingeburg	Taiwan	Prus sch	184	Sugar & Sundries	Coit Truelson and Co.	7
429	Neptune	Hongkong	Br str	294	Rattans, Fans, Lungyaans, &c	Davidson and Co..	7
429	Wilhelm	Taiwan	Bre baq	266	Sugar & Ground Nuts	Chinese	7
430	Shanse	Shanghai	Am str	561	Bale Goods, Op., Oil & Sun.	Nissen & Robertson	7
430	Felicie	Taiwan	Bre sch	365	Sugar, Lungyans & Sun.	Chinese	7
430	Vills de Granade	Taiwan	Fr baq	269	Sugar, Lungyans & Sun.	Chinese	7
501	Express	Shanghai	Br str	290	Op., B. Goods. Wax & Sun..	David Sassoon, Sona & Co.	7
501	Peiho	Shanghai	Br lug	50	Lead, Iron & Oil	W. & G. M. Hart	7
502	Shanse	Shanghai	Am str	561	Opium & Bale Goods & Sun.	Nissen & Robertson	7
503	Minna	Hankow	Br lug	75	Gypsom, Oil, Mats & sun.	David Sassoon, Sona & Co.	7
504	Shanse	Shanghai	Am str	561	Op., B. Goods. Oil & Sun..	Nissen & Robertson	7
506	Express	Shanghai	Br str	290	Op., B. Goods, Hemp & Sun.	David Sassoon, Sona & Co.	7
506	Stella	Taiwan	Br baq	265	Sugar, Lungyans &	J. H. Priece	7

					Sun.		
507	Malvina	Takao	Bre baq	234	Sugar	Davidson and Co..	7
507	Alerta	Taiwan	Ham bg	209	Sugar	Chinese	7
507	Meta	Taiwan	Bre sch	274	Sugar	Chinese	7
508	Express	Shanghai	Br str	290	Opium, Bale Goods & Sun.	David Sassoon, Son & Co.	7
508	Caroline	Hongkong	Prus sch	280	Sugar, Rattans & Sundries	Coit Truelson and Co.	7
510	Express	Shanghai	Br str	290	Bale Goods & Sundries	David Sassoon, Son & Co.	7
510	Prince Kung	Foochow	Br str	135	Fruit	Davidson and Co..	7
727	Staeling	Cruise	H.M.G.B				16
727	Ellodie	Sydney	Fr baq	277	Coal	Davidson and Co..	16
729	Fidelio	Swatow	Ham baq	329	Sugar	Chinese	16
729	Brema	Hongkong	Bre.baq	380	Rice, Tin & Sundries	Nissen & Robertson	16
729	Amoy	Bangkok	Siam.bg	262	Sugar, Rice, Medicine, &c.	Chinese	16
729	Bentik	Bangkok	Siam.baq	537	Sugar, Rice Man. Bark, &c.	Chinese	16
729	Meteor	Hongkong	Siam.baq	395	Sugar, Rice, Sapanwood, &c.	Chinese	16
730	Jubann Smidt	Hongkong	Bre.baq	400	Rice & Rosewood	Nissen & Robertson	16
731	Flying Cloud	Foochow	Br.str	21	Ballast	Davidson and Co.	16
1129	Johanna	Hongkong	Bre.baq	238	General	Chinese	31

1867 年 4 月から 11 月までの残された記録で 36 隻の汽船の入港記録がわかる。これらの来航地から見れば次のようになる。

上海から寧波に来港した船舶が 13 隻で 35.1%、台湾が 7 隻で 19.4%、香港が 6 隻で 16.7%、福州が 2 隻で 5.7%、高雄が 2 隻、バンコック 2 隻、漢口が 1 隻、シドニーが 1 隻、汕頭が 1 隻、Crinise が 1 隻である。地理的關係から上海が最大の指数を示していることは明らかである。先に掲げた「寧波事情ニ係ル件」の水路について「其幹線タル上海トノ聯絡ハ勿論」と述べているように、五港開港後の寧波は上海との關係が極めて密接な關係にあった。物流のみならず人的交流も極めて盛んであり、開港後の上海へは多くの寧波及びその近隣の地域の人々が進出し

ていた。¹¹この人々の移動のための汽船の定期航路が寧波商人の虞洽卿等によって設立されることになる。¹²

船舶の種類は、英国軍艦 1 隻を除き、35 隻の内、イギリス汽船が 10 隻、アメリカ汽船が 4 隻以外は全て洋式帆船である。ベルギーの帆船が 7 隻、フランス帆船が 2 隻、ハンブルク帆船が 2 隻、プロシア帆船が 2 隻、シャム帆船が 3 隻であった。

残された記録の特徴を積荷から見てみると、アヘンを積んだ 10 隻の船舶は全て上海から寧波に来港している。

砂糖を積んだ 13 隻が南方から寧波に来航した。台湾から 7 隻、高雄から 2 隻、香港から 2 隻がバンコックから 2 隻がいずれも砂糖を寧波にもたらした。

寧波と台湾との航運関係は、先の「寧波事情ニ係ル件」に、

特ニ我臺灣ト寧波トノ民船貿易關係ヲ見ルニ、

1912 年	53 隻	55,600 担
1913 年	34 隻	32,600 担
1914 年	26 隻	24,500 担
1915 年	23 隻	20,000 担
1916 年	22 隻	17,000 担
1917 年	29 隻	28,000 担
1918 年	87 隻	75,000 担
1919 年	34 隻	29,600 担
1920 年	21 隻	19,600 担
1921 年	16 隻	9,000 担

即チ年ト共ニ衰へ居レリ。一當業者ノ言ニ據レバ直接臺灣ト往來シタルモノガ、一部上海ヲ經由スル外、近年福建方面トノ交通密接ヲ加ヘタルニ因ル可シト謂フ。¹³

とあるように、「寧波事情ニ係ル件」が作成された当時は台湾は既に日本の統治下にあったが、それでも 1912 年から 1921 年までの 10 年間は最大で 87 隻、最少でも 16 隻の民船が寧波と台湾の間を航行して貿易していたことになる。台湾が日本によって統治される以前にあったのは次の写真のような中国式帆船いわゆるジャンクによって積極的な貿易活動が行われていたことは明ら

¹¹ 寧波市政協文史委員会・上海市寧波經濟建設促進協會編『上海買辦中的寧波幫』中国文史出版社、2009 年 12 月、全 312 頁。

¹² 松浦章「寧波商人虞洽卿による寧波・上海航路の開設—寧紹輪船公司の創業—」、松浦章『清代帆船沿海航運史の研究』関西大学出版部、2010 年 1 月、422～449 頁。

¹³ 「寧波事情ニ係ル件」、五～六頁。民船数及びトン数はアラビア数字に改めた。

かである。

特に台湾から寧波には台湾特産の砂糖が大量に運ばれてきた。表 3 に示した台湾から寧波に入港した船舶の全てに積荷として砂糖が積載されていたことから明らかである。



(57)

BOAT AT BUND, FORMOSA.

船形那支ノ岸海灣臺

台湾海岸の中国式帆船 (20 世紀前半の絵葉書より)

寧波にとって砂糖の重要な供給地が台湾であったことは、この Ningpo Shipping List からわかるのである。

4 小結

上述のように The North-China Herald and Market Report にみる 1867 年の Ningpo Shipping List から、南京条約によって開港された寧波に来港してきた船舶の軌跡と寧波の貿易の状況の一端を見ることができるであろう。海関史料などの記録には相対的な統計数字が記録されているが、このリストは寧波と関係があった国々や地域の具体的な姿の一端を見せている。そして寧波の貿易の実態の片鱗も読み取ることが出来るであろう。

1867 年に寧波に来港した上海からの船舶が 13 隻で 35.1%、台湾が 7 隻で 19.4%、香港が 6 隻で 16.7%、福州が 2 隻で 5.7%、高雄が 2 隻、バンコック 2 隻、漢口が 1 隻、シドニーが 1 隻、汕頭が 1 隻などであった。地理的關係から寧波にとって上海との關係が最も深かったことがこの船舶数にもあらわれていることは明らかであり、五港開港後の寧波は上海との關係が極めて密接な關係にあった。物流のみならず人的交流も極めて盛んで、開港後の上海へは多くの寧波

及びその近隣の地域の人々が進出していた。

1867 年の The North-China Herald and Market Report の Ningpo Shipping List は五港開港後、20 数年経過した時期ではあったが、五港開港によって寧波も外国からの貿易攻勢の波を直接受ける事態であったことも、この Ningpo Shipping List は語っていると言える。

【附記】本稿は、平成 24 年関西大学アジア文化研究センター「東アジア文化資料のアーカイヴズ構築と活用の研究拠点形成（代表者：松浦章）の成果の一部である。